

百折不撓 周年 葦崎高校



葦崎市長 内藤久夫
第22回卒業生

おめでとうございます 葦崎高校100周年

「他者のことを思いやれる人に」

私は今年68歳になり、葦崎高校を卒業したのが50年前のことになります。もうそんなに経ってしまったのかと改めて感じると共に、創立50周年で卒業をし、創立100周年という節目に立ち会えたということに不思議な縁を感じます。

我々がいた頃の葦崎高校と今とは、校舎も違うし、全県から生徒が集まってくるということも違ってきます。しかし、今まで会ったこともなかった人と、「葦高卒の先輩後輩」というだけで、急に距離が縮まるということがたびたびあり、葦崎高校の持つ力というものに驚かされます。今も昔も様々な方に有形無形の助けをいただいているということは、葦崎高校の出身でよかったと思うところです。自分がよくしていただいたのだから、後から来る人に、自分も同じようにこの伝統を引き継いでいきたいと感じています。

我々の頃の「百折不撓」はがむしゃらにやることでしたが、今はそういう時代ではありません。恐らく、100人いれば100人なりの「百折不撓」があるのではないかと思います。自分にとっての「百折不撓」はなにかということを問いかけて、考えて、自分なりの「百折不撓」を見つけていくことが大事なのだろうと思いますし、また相手にも相手なりの「百折不撓」があるということを理解できるような、そんな気持ちを大切にしてもらいたと思います。



葦崎高等学校校長 今村勇二

「峡北地域生え抜きの科学者を」

私は旧田富町の出身で、甲府市内の高校から、東京の大学を卒業し、教職の道へと進みました。最初、甲府市内の中学校で教員として7年間勤め、その後、吉田高校に異動してから甲府周辺の高校を中心に勤務をしていましたが、峡北地域へ来たのは葦崎高校が初めてでした。伝統校であり、創立100周年を迎えるという節目の瞬間に立ち会えたことを、大変光栄に思います。

「文武両道」を謳う葦崎高校では、多くの生徒が学習と部活動の両立を目指しています。今年度、11年目のスタートをきったスーパーサイエンスハイスクール (SSH) が特色である進学校ですが、同時に全国大会で成績を残せるほどの活発な部活動も特色の一つです。「グリーン旋風」と称されたサッカー部はもちろん、女子バスケットボール部、女子バレーボール部、陸上部、弓道部など県内トップレベルの成績を収め、吹奏楽部においては、「西関東吹奏楽コンクール」で、山梨県勢としては49年ぶりの金賞をとるなど、目覚ましい活躍をしています。

今後、葦高の強みである部活動とSSHをデータサイエンスでつなげ、部活動の練習や戦術などに活かしたいと考えています。そして、その成果として全国大会へ多くの部活動が出場し活躍してくれることを願っています。ゆくゆくは大村先生に続く「峡北地域生え抜きの科学者」が育ってくれることを大きな夢としています。

